

種子で広がる緑の輪 身近に楽しむミニ盆栽①

公園や緑地で見つかる樹木の実図鑑

秋には、さまざまな樹木に実がつきます。
樹木の実を集めるのは、10月～12月が適しています。
足元に落ちている実だけでなく、樹木についている実をよく観察して、
熟す時期を逃さないように！ その後、拾って、そしてお家で蒔いてみてください！



アキニレ



イヌシデ



イヌマキ



イロハモミジ



エノキ



カツラ



クスノキ



ケヤキ



ヒメシャラ



ツバキ・サザンカ



メタセコイア



モミジバフウ



イチヨウ



アカマツ・クロマツ



ユリノキ



ヤマボウシ



ウバメガシ



クヌギ



クリ



コナラ



シラカシ



アラカシ



スダジイ



マテバシイ



公園や緑地にはこれ以外にも
たくさんの樹木の実が見つかり
ます。
ぜひ、外に出て、紅葉だけ
でない秋の魅力を見つけて
ください！

拾った樹木の実を処理をしよう

【種を取り出す①】実から種を取り出す



実から種を取り除きます。手で簡単にとれるものもありますが、松ぼっくりなどは、ピンセットなどで取り出します。左の矢印の場所に種があります。一番効率がいいのは、松ぼっくりの「かさ」が開く前に見つけて、容器の中で乾燥させると自然に落ちてきます。



←ケヤキは、小枝ごと種を落とすので、落葉時に小枝にある種をとります。

【種を取り出す②】種の周りの果肉をとる

果肉の中に種子があるものを洗って果肉をとります。果肉ごと播いて発芽しますが、芽が出るのが遅れるなど影響があります。



拾ったヤマボウシの種子を洗って果肉を取り出した様子。紹介した種子では他に、クスノキ、エノキ、イチヨウ、イヌマキ、が該当。また、食べる果物や野菜に多い。

【虫に食べられていないか確認する】



持ち帰ったドングリからイモムシが出てくる場合があります。

▼虫に食べられたドングリの見分け方(避け方)は、

- ①落ちていないドングリで青いドングリは取らない。
- ②水にいれて浮かんだものは取り除く。

これらのドングリは、点のような傷があったりします。

【拾った種子の播きどきはいつ?】

▼一番、簡単なのは、取り播きです。

種の下処理が終わったら、すぐに播くのが一番です。



▼種子を播くは土は何でも大丈夫です。コツとしては、

- ・他の植物の種がないものを選ぶ。(芽が出た際に播いた種子が分からないを防止)
 - 赤玉土や市販の種まき用の土がオススメ
 - ・様々な種子を播く場合は、播く場所に名前をかいておく。
 - ・一つの区画には、一つの種類の種をまく。まく数は、1個ではなく複数個まく。
- ※播いた後は、乾燥させないように定期的な水やりが必要です。

【播いた種子の芽生えは】

▼取り巻きで晩秋～冬に蒔いた種は、3～5月に芽が出てきます。

- ・自然の種なので、未熟で発芽しないものがあります。
- ・樹木の種類によっては、播いてすぐ発芽しないものもあります。

ユリノキは基本、播いたその年は、発芽しません。モミジの仲間も当年だけでなく2年目に発芽するものあり、一斉に発芽しないようになっています。



クロマツの芽生えの様子

【種は保存もできます】

▼種の保存方法は、2種類。

① 乾燥して保存する

元々、拾った種が乾燥しているものが該当。よく乾燥させてジップロックに入れて低温(冷蔵庫)で保存すると数年持ちます。保存して、3月～5月頃に播きます

② 湿らして保存する(中級者向け)

果肉に包まれた種やドングリなどは、乾燥すると発芽しなくなります。きれいな水苔やパーミュキュライトを軽く湿らせてその中に種をいれて冷蔵保存します。 ※カビが生えたりするので、少し難しい保存方法になります。



樹木の芽生えと成長の紹介

蒔いた種がどんな芽生え、成長するか、育てたものを紹介します。
ぜひ、自分で確かめてください。
自然のものは、100%発芽しません。たくさん種をまくのがコツです。



クロマツ イロハモミジ クヌギ クスノキ アキノレ イヌマキ



ユリノキ



スダジイ



メタセコイア

■播いてから3年後の様子(少し剪定をしていますが、たいした管理はしていません) ➡ ここから頑張ってミニ盆栽へ！



アキノレ



イヌマキ



イロハモミジ



ケヤキ



メタセコイア